こんな先生いるよ！

「英語、文学、落語、サッカー」

教養教育研究院
野田キャンパス教養部　教授
佐藤憲一（さとうけんいち）先生

学生の知的好奇心を育てる英語授業

英語教育に携わる者として、理系の学生にどんな教育を提供したいのでしょうか。

私が主として受け持っているのは、いわゆる英語の４技能に関わる科目です。

近年、それらをプロジェクト型授業として展開しています。学生と共に探究テーマを設定し、英語資料による調べ学習を行い、英語でディスカッションをし、学期に２回の英語によるプレゼンテーションをしてもらいます。プレゼンテーションは、発表内容の要旨をポスターに書き出して英語で説明するポスタープレゼンテーションや、パワーポイントの動画を履修者間でピアレビューする形など、様々です。

近年はＡＩやｅラーニングも積極的に活用し、英語を媒介として学生の知的好奇心を涵養するよう心がけています。理科大の学生は学習習慣があり、思考力も高い学生が多く、やりがいを感じています。

初期アメリカ文学の魅力

専門の初期アメリカ文学の魅力はどんなところにあるのでしょうか。

研究の対象は、北アメリカにイギリス人が移民を始めた頃から、独立直後までの間です。アメリカの原型がどのように整っていったかについて、文学的にアプローチしています。具体的には、米国議会図書館で３００年以上前の古文書を渉猟しながら、「アメリカ」のイメージが人々の想像力によって生成・共有・拡散されていく様子を見定めています。これは実にスリリングな作業としか言いようがありません。

落語・サッカー

サッカーをはじめ多彩な趣味を持っているそうですね。

子供のころは剣道少年でした。市の大会で優勝するなど、実力はあったと思います。中学生の頃から落語が好きで、現在は故林家彦六師匠の最後のお弟子さんである林家正雀師匠の素人弟子としてお稽古をつけてもらっています。年に一度、高座にも上がります。話すことは教員にとっての基礎技術でもあるので、落語の話術から学ぶところは多々あります。

剣道の「しごき」が嫌になって始めたサッカーは、今も続けています。そのために日本サッカー協会のコーチングライセンス（Ｃ級）も取得しました。

地元の小学校の協力を得て、楽しむことに主眼を置いたサッカー活動を主宰しています。私も保護者の協力もすべてボランティアがモットーです。月謝ゼロを徹底し、昨今の日本では失われつつある「習い事ではない、遊びとしてのサッカー」を子供たちと共に楽しんでいます。

昨年、本学野田キャンパスのサッカー部に女子チームが創設され、コーチに就任しました。学生たちと「全力でサッカーを楽しむ」ために、日々試行錯誤しているところです。

もはや本職が何なのか、たまに自分でも分からなくなりますが……「生きていて楽しい」、それは間違いありません。

太田正人（ジェイクリエイト）

[写真左]
「元犬」を口演した高座（稲成町「一番太鼓」）
[写真中]
子供たちと共に楽しむサッカークラブの活動
[写真右]
元サッカー日本代表の酒井友之さんと